

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271400267		
法人名	社会福祉法人阿育会		
事業所名	グループホーム じゅらく		
所在地	〒287-0003 千葉県香取市佐原ホ323-2		
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成23年11月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのニーズに合わせた支援</li> <li>・外出支援(特に1対1の)</li> <li>・ベランダの活用→茶会、アクティビティ、日光浴等</li> <li>・ホーム内に緑の植物をたくさん置いている。犬も一緒に暮らしている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開設以来の職員が多く、「愛」と「尊重」の理念を共有している。事業所はこれを具体化するため、利用者の言葉や行動を否定しないことを徹底して、地域の中で、その人らしく暮らし続けるため、雑巾を作ったり編み物をするなど好きなことを好きなだけ行えるよう支援している。地域との付き合いに関しては、公園の散策やスーパーでの買い物の機会に地域住民との触れ合いを重ねていて、夏祭りをなどの催しに招待されている。また近くのラーメン店が利用者用のテーブルを設置してくれるなど、地域の理解が深まっている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を文面にしてリビングの壁に掛けてある。	開設以来の職員が多く、「愛」と「尊重」の理念を共有している。また、これを具体化するため、利用者の言葉や行動を否定しないことを徹底し、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っているも、なかなか交流の機会が少ない。	公園の散策やスーパーでの買い物の機会に地域住民との触れ合いを重ねていて、夏祭りをなどの催しに招待されている。また近くのラーメン店が利用者用のテーブルを設置してくれるなど地域の理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に施設や認知症の理解促進に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加者と情報、意見交換を行い、出来るところから活かすようにしている。	会議は家族会を兼ね、区長、副区長、民生委員、包括支援センター職員、福祉保健課職員、家族全員の出席を得て開催されている。会議では事業所の現況等を報告し、参加者からの助言はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携はできている。定期的に情報交換する機会もある。(グループホーム連絡会等)	地域密着サービス連絡会では運営に関する情報・意見交換を行っているが、福祉保健課の課長と担当者も出席し、市の方針などの説明があり、意見を交わしている。事業所はこれらの機会を活かし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、職員全体が身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束についての勉強会、研修に参加、全体で共有している。	職員は見守りのネットワークを形成し、外へ出たくなる場面や理由を知るなど身体拘束をしないケアを実践し、事故を未然に防止する取組を行っている。また、勉強会や研修会で身体拘束が利用者にも与える精神的、肉体的苦痛の理解を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止徹底のための勉強会、研修で学び、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している方がいるので支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解納得して頂いている。契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヶ月に一回の家族会時、面接時等において意見、要望を常時間き入れている。	家族の訪問は、頻回に又は週に1回、月に1回など様々だが来訪時に個別に要望を訊くほか、家族会や運営推進会議でも、意見や要望を訊いている。また、利用者からは日々要望や意向を聴き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加のミーティングを行って反映させている。	2ヶ月に1回午後8時から開催する全員参加のミーティングでの意見や提案は全員が共有し、運営に反映している。また、利用者に接しその状況や実情を知っている職員の意見を聞き日々のサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークができていますので勉強会、交流会はしている。活動が向上に結び付くよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるよう要望等を良く聞き、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所のための相談が主ですが、相談があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事、お茶、談笑したり軽作業を共にしながら関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どちらか一方の立場に片寄らずに本人を支えていくための関係を築けていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会はよくある。時間も特に決まりはない。お祭り見学、馴染みの場所へのお花見、買い物、散歩に外出する。	2年ほど前から十間川堤の花見やカラオケ大会など町内の催しへ参加し、地域との関係継続を支援している。また、午前6時から午後9時ごろまで家族・友人・知人の来訪を受入れ、人間関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が築けるようテーブルの席を考慮し、そこにトラブルがないよう常に見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで事例はない。今後必要があった場合は対応していきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションの中から希望、意向の把握に努め、支援している。	日々の言動や表情から、意味を汲み取り、また寄り添う支援の中で思いを受止め、家族と共に確認している。利用者調査では、傾聴態度及び寄り添い介護に対して83%の支持と、筆力をこめたコメントがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、環境、暮らし方等については、家族(本人)から情報を頂いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の見極めが重要であると思われるので、現状を把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、入居後の面会時に本人、家族との話し合いの中からニーズを把握し、ミーティングで話し合い、アセスメントシートにまとめた上で介護計画書を作成しています。	ケアプランや経過記録の理解度について家族から83%の支持がある。事業所の日々の努力による利用者の落ち着き及び家族の信頼の様子をグラフが示し、制度の根幹が共有・ボトムアップされている様子が窺われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護日誌に記入し、共有実践に活かし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームですので多機能化はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行っている。状態悪化、急変が生じた時点で理事長である看護師長に連絡、必要に応じ受診往診を行っている。適切な医療支援を行っている。	かかりつけ医との信頼関係は関係者に安堵感を与えている。利用者を見つめる家族は【根気良く優しく介護してもらっている】と記述している。経営母体が医療法人のため、職員同行や経過説明・移動などの、ロスが無い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康管理等の相談をしたり、医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している。大体が急性期のみ入院で、後はグループホームでフォローする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでできること、できないことをかかりつけ医の指示を受け支援している。悪化に備えた検討や準備等も家族とも連携をとり共有し支援している。	入所検討の段階で家族から相談がある。家族とは十分な意思疎通を図り、状態悪化への備えを検討し、方針の共有が図られている。また家族からの信頼が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作っている。それをスタッフ全員が熟知するよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力体制はできている。	非常時には、消防署との打ち合わせで避難場所に指定されているベランダまで避難誘導することとしている。また、消防団員が駆けつけてくれる約束事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の書類は鍵のかかる書庫へ保管している。自尊心を傷つけるような言葉は使わない。否定しない対応を基本としている。	個人の尊厳を重視し、誇りやプライバシーを尊重する記録を旨としている。管理者による適正かつ日常的指導も徹底されているようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感情表現、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の取り決めはない。コミュニケーションを大切に、無口な方、おとなしい人からは特に引き出すよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧する手伝いをしたり、服と一緒に選んだり、お店へ買い物のお誘いがあれば行く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて野菜を切る。盛り付けをする。食器を拭く。座ったままでできること、献立の相談、買い物と一緒にいく。定期的に外食を実施。	好き嫌いが激しい利用者の家族は、食事に関しても、【只々頭が下がる、実の親子でもこうはできない】、【食べ物も良く工夫されている】と利用者調査自由記述欄に感謝を綴っている。食後休憩をとる利用者からは安堵感が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせておかゆ、きざみ食を作る。食事、水分摂取量のケアノートを記録している。毎月体重測定をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方、義歯のない方、状態に応じ清潔保持の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成してパターンを把握。日中はトイレ誘導している。尊厳を重んじながら支援している。	自立を目指し、急がないが確かな課題として取り組んでいる。利用者個々に感性が違い、利用者に好ましいパターンを大切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成して把握している。予防のための働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。本人の希望を取り入れ、楽しんで頂いている。入浴を拒否するときには無理強いはいしない。	広い浴室であった。脱衣・汚物処理・洗濯機行きなど、効率的作業動線が感じられる。作業環境が良好なら利用者の快適な入浴に繋がると思われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋間のアクティビティとして1Fのデイサービスを利用している。外出支援等。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の理解と保管場所、薬の情報書の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしゃれを楽しむ方、歌の好きな方、買い物外出が好きな方にはそれぞれ支援している。軽作業等の役割があると嬉しいようである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食、散歩、買い物、受診等と日常的に支援している。	この項目は利用者調査でも正確な結果が乏しい。 外出した記憶等、個人差があり詳細に利用者は記憶していないかもしれない。事業所では散歩やお買い物など、天候をみて利用者を楽しませている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外食時に自ら支払いする方もいる。財布の中へはその時足りる程度の金額を入れておく。多くても少なくともいけないうである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節の花を生けたりしている。外出したときイベントの時等の写真を壁に掛けてある。	スタッフの移動が無く、いつ行っても明るい雰囲気なので利用者に不穏がおきないと利用者調査に記述がある。中庭に面した静かな共用空間は去り難さを感じさせた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで過ごしたり、食堂で会話、和室での昼寝、サロンから外を眺めたりと思ひ思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのもの、タンス、寝具類、ラジオ、食器等を持ってきている。家族の写真も飾ってある。	居室を拝見できない時間帯であったが、利用者調査【家族コメント】には【ベッドメイクは万全。洗濯物もきちんと整理されてある】との記述があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わからなくなった方には見守りをしながら声をかけている。		